

E P A活用推進会議
(第2回)
議事要旨

日時：2022年9月28日（水）13：00～15：00

形式：オンライン（Microsoft Teams）

出席者：

別紙の通り

配布資料：

- 1) 議事次第・配布資料一覧
- 2) 参加者一覧
- 3) 事務局説明資料
- 4) 啓発関連の課題と進め方（案）
- 5) 標準化・デジタルツール関連の課題と進め方（案）
- 6) 制度・運用関連の課題と進め方（案）

議事概要：

1. 開会
 - ・ 椎野座長（拓殖大学 国際学部 准教授）より挨拶。
2. 挨拶
 - ・ 福永経済連携課長より挨拶。
3. 新任挨拶
 - ・ 座長より新任者を紹介。新任者よりそれぞれ挨拶。
4. 本日の会議の位置付け
 - ・ 桂経済連携課課長補佐より説明。
5. 目標の考え方・体制について
 - ・ 前回会議において、当会議の取組進捗を確認する上で、参加者より目標設定することが有効との提案があった。これを踏まえて、事務局よりEPA活用推進の目標設定に関する論点として、定量的な指標例、定性的な指標例のそれぞれ利点と課題を示しながら説明をした。

6. 前回会議からの進捗状況 ※詳細は配布資料4～5参照

- 啓発関連の課題と進め方（案）
- 標準化・デジタルツール関連の課題と進め方（案）
- 制度・運用関連の課題と進め方（案）

7. 各業界の取り組み紹介

- ・ 鉄鋼業界、印刷産業機械業界の業界代表より、EPA 活用推進の取組を紹介。
 - 鉄鋼：鉄鋼業界の EPA への対応の変遷、今後の検討事項および期待および鋼材分野における“原産地規則交渉”・“市場アクセス交渉”に関する紹介。
 - 印刷産業機械：印刷産業機械業界における、企業規模と EPA 利用状況に関する調査・分析結果、および今後の対応策について紹介。

8. 自由討議

- ・ 参加者より下記のようなコメントが出された。
 - EPA を利用する上で、費用対効果の観点で、一番難しいのが原産地規則。EPA 活用の裾野を広げるためには、実務者を OJT 的にサポートすることが有効ではないか。
 - JAFTAS の実証事業版に参加しているが、業界としても引き続き先行事例として業界にフードバックできるように連携していきたい。
 - マニュアルは非常に有効な一方、輸出からのリードタイムも最初に示す等、業界の実務者にわかりやすいように整理するのが重要。
 - 同じ産品を証明する場合において、業界毎に重要視する点が異なることがわかった。業種横断で検討することが大事と認識した。

9. 次回会議に向けて

- ・ 事務局より次回会議は12月～1月頃を予定している旨、紹介された。

以上

お問合せ先：

通商政策局 経済連携課

電話： 03-3501-1595

FAX： 03-3501-1592